

### 企業概要

**企業名** ドンナベラ  
**代表者** 岡 千代子  
**所在地** 〒515-0316  
 多気郡明和町大字有爾中1155-310  
**TEL・FAX** 0596-52-3134  
**営業日** 年中無休  
**業種** 婦人服小売業  
**所属商工会** 明和町商工会  
**URL** <http://www.shokokai.or.jp/24/2444210050/index.htm>

**●住宅街のハウスブティック**  
 今回紹介するハウスブティック「ドンナベラ」は、県道37号線(旧国道23号線)の有爾中交差点を北進し、県道530号線を齋宮



代表の岡 千代子さん

## 会員さん訪問

### ハウスブティック ドンナベラ

**新しい洋服**  
**「きものふく」に**  
**思いを込めて!**



店舗外観

大きな洋品店に就職した。服飾関係の経験・知識を活かし、メキメキ頭角を現し3年ほどで本店の店

**●衣の世界に生きる女**  
 代表者の岡千代子さんは、東京文化服装学院を卒業後、東京で服飾関係の仕事に従事し、結婚後も洋裁教室やデザインに関係する仕事をしてきた。そして、今から31年前に家族で地元の伊勢市に戻り、当時、多店舗展開していた

に向かつて約700m進んだ齋宮苑という住宅街の一角にある。店舗兼アトリエは、自宅に併設されており、華々しさはないが、落ち着いた雰囲気を出し、閑静な住宅街の中でもハウスブティックとしての存在感を示している。

**●新しい洋服「きものふく」!**  
 「ドンナベラ」のオーナーでデザイナーの岡さんが今、力を入れているのが「きものふく」である。ある時、顧客から「箆笥の中にな

創業する際に「どのような店名にするべきか」占ってもらったところ、13画で濁点が入った店名が良いと言われ、イタリア語のペラドンナ(美しい女性)を語源にすることとした。「美しい女性」とはもちろんお客さんのことであり、強さを演出するために順序を入れ替え「ドンナベラ」と命名した。

**●「ドンナベラ」の由来**  
 長にまで上り詰めた。しかし、このまま人に使われて人生を終わらせるのではなく、何時かは自分の店を持つと心に決めがむしやりに働き、今から20年前に独立開業した。岡さんは、学生時代からデザイン、製作、販売と「衣料服飾」と深く関わっており、自身で「衣の世界に生きる女」と表現されているが、まさしくその通りの人生を歩んでいる。

しよう」と思ったのがきっかけで、単なる着物のリフォームではなく、時代のトレンドなどを活かしながら着物を使って新しい服を創造する「きものふく」を考案した。「きものふく」は、生地の違いや柄・模様の特長などを活かしながら、顧客の感性やライフスタイルに合った製品を作り上げるので世界に一つ、オンリーワンの洋服となる。それだけに妥協は許されず、作品のイメージが固まるまで、打合せを重ねたりして1年以上もかかるケースがあるとのことである。

**●夢・自標**  
 岡さんの夢・自標は、若い世代の人たちや日本だけでなく世界中の人たちに「きものふく」を広めていくことだそう。特に、若い世代の感性と「きもの生地」を持つ伝統や先人の思いなどが組み合わさって、そこからまた新しいものが創造されることを願っている。そして、元氣な限り「衣の世界に生きる女」として活動していくとのことである。



「きものふく」

むついている着物ってもつたない、何とかならない?」と相談を受け、「何とか



なお、現在は、伊勢志摩地方を中心に年間2回程度個展を開催

し、作品を出品して「きものふく」の魅力を発信している。次回の個展は伊勢市の伊勢シティーホテルで10月に開催されるので、読者の方も是非「きものふく」をご覧いただきその魅力に触れて頂くことをお勧めします。

(中小企業診断士 橋本大輔)

### コメント

今から15年前から着物から洋服に仕上げる「きものふく」をつくってみえて、三重県内各地で個展を開くと多くの人が来場され、会場関係者からは絶賛されるほどです。お近くで開催された時は、是非お足を運んでいただきたいと思います。



明和町商工会 経営支援員 堀江 勝昭

